

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2373600283
法人名	社会福祉法人サンライフ
事業所名	グループホーム ジョイフル布袋
訪問調査日	平成21年4月3日
評価確定日	平成21年5月1日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月1日

【評価実施概要】

事業所番号	2373600283		
法人名	社会福祉法人サンライフ		
事業所名	グループホーム ジョイフル布袋		
所在地	江南市北山町東212番地 (電話) 0587-56-7451		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成21年4月3日	評価確定日	平成21年5月1日

【情報提供票より】(平成21年3月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年4月15日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	8 人	常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	15,510 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成21年3月14日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名	
要介護1	3名	要介護2	4名			
要介護3	0名	要介護4	1名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	88歳	最低	80歳	最高	98歳
協力医療機関名	江南厚生病院					

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道155号バイパスと県道177号の南山交差点北300mほどの田園地帯にデイサービスセンター及びグループホームジョイフル布袋は建っている。すぐ東側は桜の名所五条川であり、訪問時には入居者がいつ花見に行こうかと楽しそうに話をしていた。母体は多くの介護施設を擁する社会福祉法人であり、各種資格取得のため独自のテキストを作ったり、年間カリキュラムを組み、講習を行って職員の質の向上に努めている。ハウスマネージャーは入居者の行動には必ず原因がありその前兆を『察知』することで未然に危険を回避し、間に合わなかった場合はその場で原因を解明して次回に生かすことができるよう職員に教育している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>いきなりの入居ではなく他の入居者、ホームの生活に馴染めるようにとの改善課題が出されたが、現在はまず見学时、家族にホームの説明をしている間に、本人には入居者に交じて会話してもらい、ホームに馴染めるか様子を観察している。その上で2泊3日の体験入居をしてもらい、入居者との相性を見極めて入居判定をしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ハウスマネージャーは他ホーム評価と比べて、地域密着性が足りないと感じ、運営推進会議を通じて心肺蘇生法、AEDの使用法、誤嚥対策等様々な講習を施設を利用して地域に公開している。また、ケアの仕方や現状を見直す良いきっかけだと感じている。職員は自己評価を文章で答えることに馴れていないこともあり、戸惑いや混乱があった。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>隣町を含む区長及び民生委員、地域包括支援センターの職員、江南市の長寿介護課職員、家族、管理者、職員で構成され2~3カ月に1度開催している。地域包括支援センターの職員から、在宅介護をしている家族からグループホームについて質問を受けたことがあるという話から、家族の方に来てもらい見学会を実施した。メンバーの方の中には、運営推進会議に欠席する際に、会議の資料を希望される方もいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族は頻繁にホームを訪れ、その都度対応した職員から日頃の様子が詳細に家族に伝えられる。職員は誰でも全ての入居者について話せるよう、常日頃情報の共有に努めている。また、カンファレンスにはほとんどの家族が同席し、現在の計画、現状及び今後の取り組みについて説明がされる。家族も遠慮なく要望を述べ、カンファレンスは時には数時間に及ぶこともある。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、地域の祭りには子どもみこしや馬を引き連れてホームを訪ねてくれる。施設の広場では、毎日子ども達が遊びに来て、入居者に絵を届けてくれる。入居者も子ども達との交流を楽しみにしている。地域の入居者が多いこともあって、自治会の区長が親身になって世話をしてくれる。入居者が一人で外出すると近所の農作業中の人からホームに連絡してくれる。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型となり法人理念とは別に「普通の人があたりまえの普通の生活を」「いつも笑顔で感謝の言葉をより多く」「家族、地域と連携して共に歩もう」とのホーム理念を定めた。地域の人々に入居者の顔を覚えてもらおうと外出時には必ず挨拶を欠かさず、最近では作物を頂いたりスーパーの店員からも声をかけてもらえるようになった。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の会議で必ず理念を確認し、その中で普通の生活とは家庭での生活と同じ生活であると職員に教育し、まず個々のペースに合わせるよう励んでいる。「家族のように」と思っても入居者はそう思っておらず「嫁でもないのにすまないねえ」と遠慮しがちだが、それを感じさせないケアの実践が理念の実現だとハウスマネージャーは信じている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の祭りには子どもみこしや馬を引き連れてホームを訪ねてくれる。施設の広場では、毎日子ども達が遊びにきて、入居者に絵を届けてくれる。入居者も子ども達との交流を楽しみにしている。地域の入居者が多いこともあって、自治会の区長が親身になって世話をしてくれる。入居者が一人で外出すると近所の農作業中の人々がホームに連絡してくれる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ハウスマネージャーは他ホーム評価と比べて、地域密着性が足りないと感じ、運営推進会議を通じて心肺蘇生法、AEDの使用法、誤嚥対策等様々な講習を施設を利用して地域に公開している。また、ケアの仕方や現状を見直す良いきっかけだと感じている。職員は自己評価を文章で答えることに馴れていないこともあり、戸惑いや混乱があった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>隣町を含む区長及び民生委員、地域包括支援センターの職員、江南市の長寿介護課職員、家族、管理者、職員で構成され2~3カ月に1度開催している。地域包括支援センターの職員から、在宅介護をしている家族からグループホームについて質問を受けたことがあるという話から、家族の方に来てもらい見学会を実施した。メンバーの方の中には、運営推進会議に欠席する際に、会議の資料を希望される方もいる。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護課職員とは常に連携を取っており、以前隣地にある大きな木に無数の虫が発生し、バリアフリーのためホームに大量に侵入した時も、職員に相談したらすぐに枝を払いに来てくれた。また暖かくなると側溝の匂いが激しいとの区長との会話から身近な介護課の職員に連絡し、そこから更に土木課に連絡・対処され地域の人からも喜ばれた。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族は頻繁にホームを訪れ、その都度対応した職員から日頃の様子が詳細に家族に伝えられる。職員は誰でも全ての入居者について話せるよう、常日頃情報の共有に努めている。また、カンファレンスにはほとんどの家族が同席し、現在の計画、現状及び今後の取り組みについて説明がされる。家族も遠慮なく要望を述べ、カンファレンスは時には数時間に及ぶこともある。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>どの家族もいつも率直に要望を伝えてくれる。家族会はないが運営推進会議への参加もあり、電話でも意見、苦情を伝えてくれる。「職員の顔と名前がわからない」との家族の声に答えて、現在玄関に職員の名前入り写真の掲示を検討している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人の規模も大きく異動は避けられない。現職員には特別養護老人ホーム、介護老人保健施設からの異動職員もいる。前管理者が突然の退職だったため家族に事前の報告ができず、アンケートにあるように心配をかけたと感じており、異動が決まれば家族にはすぐ報告する。ただし、入居者にはダメージを与えないよう、体調・心理状態を見極めて報告している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では新人から一般職員、専任または管理職へ、管理職はさらに幹部職員へとカリキュラムを構成し個々のステップアップを図っている。各種資格取得のためのテキストも法人独自に編集し、合格者は受講料及び資格手当が法人から支給される。ホーム内では個々の能力に合わせて勉強会を開催し、外部講習には一般職員も出勤扱いで参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人組織は名古屋、岐阜、江南、春日井、長野の各エリアに分かれており、それぞれのエリア内の介護職員により、またはグループホーム職員のみによる様々な研修、勉強会、相談など行っている。グループホーム部会では今自分たちに必要な介護知識を討議し、講師を要請し、自主的な研修を行っている。これら研修には一般職員も出勤時間内に出席できるようシフト調整している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学会では家族に説明をしている間、本人に実際に入居者と会話してもらい、まず現入居者に違和感・拒否がないかを見極めている。その上で2泊3日の体験入居してもらい、今度は本人がホームになじめるかどうか、他害、混乱等がないかを見極め、その上で入居判定をしている。過去には混乱による他害から現入居者を守るため入居を断った例もある。見学会はいつでも受け入れ可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者はそれぞれ得意分野があり、各自が自分の仕事として怠ることなく精を出している。米研ぎ名人はパンのときは自分の出る幕がなく「私が米研ぐからいつでも言っただけ」と淋しそうにしている。他の人も包丁使い、味噌汁がかり、掃除、洗濯、ごみ出しに精を出している。男性入居者は重い食材を持って帰ってくると無言で受取り、運んでくれる。全員が「ありがとう、助かったわ」と言う自分が役にたっているという誇りに包まれ、とても嬉しそうにしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>よく戦争の話がされるが「今すいとんがブームで専門店もあるらしいですよ」と話を向けると、その時のひもじさが強烈だった方には「二度と食べたくない」と拒否をされた。また、多くの人が「死ぬなら家で死にたい」「誰かに介助されながら生きていたくない」とはいうものの「嫁や息子に迷惑がかかるからここにいる」と話される方あり、職員は思いを受けとめながら、家族のように接している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者ごとに担当の職員を決めている。カンファレンス会議で、日々の介護記録を参照し、入居者、家族、職員で入居者の思い、家族の要望、職員が毎日のケアの中での気づき等、入居者にとって今何が必要なのか、何が不足しているのか問題点を出し合い意見交換をし、入居者の意向を反映した介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には3カ月毎の見直しを行っている。見直しには入居者家族も参加し介護計画に沿ったケアに満足しているのかの実施状況、目標達成度、今後の対応を話し合っている。新たな変化が見られない場合でも見直しの重要性を理解し、入居者の変化の気づきを見落とさないように介護計画に盛り込み継続をしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算をとっている。併設のデイサービスの車を借りて外出したり、喫茶コーナーでお茶を楽しんだり、入居者の気分転換になっている。職員運転の車で利用者と家族を病院へ送迎し、法人内合同の運動会、夏祭りには入居者が浴衣を着て参加したり、法人の多機能を活かした柔軟な支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>希望に沿った受診ができるように、入居前からのかかりつけ医への受診を継続している入居者は家族による受診をお願いしている。受診時には情報を提供し、受診後は診察の結果をいただき職員が記録を記入し、看護師に受診結果を相談している。ホームかかりつけ医は2週間に1度往診があり、入居者の健康面に心配がある時は、相談できる関係ができています。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居前にホームの方針説明を行い、自主歩行が不可能になった場合は、他の施設や法人内施設に変わっていただくことを了承しての契約になる。重度化に関する勉強会は法人グループホーム部会エリア内(春日井・江南・岐阜)へ職員が参加し、内容をホームに持ち帰っている。重度化の入所がないためターミナルの経験はないが、必要性は感じている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報が入所時に説明をし、同意を得ている。記録、メモの処分は必ずシュレッダーにかけ、個人記録はイニシャルで表示、記録は入居者の目の届く位置には置かないで事務所に管理を行い、ボランティアや実習生を受け入れる時には個人情報保護のため、壁の掲示物は取り外すようにしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ほぼ毎日散歩をするが見守り、安全確保のため、午前、午後に分けて出かけている。毎日の買い出しも何組かに分けて行っている。月に2回は外出し、今年は家族とともに温泉へ一泊旅行にも行った。冬に白菜をたくさんいただいた時には皆で腕をふるって漬物を作った。盆正月には家族のもとへ喜々として帰る入居者もいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に合わせて職員と一緒に食材を切ったり味見をしてもらったり、おかずの盛り付け等の手伝いを行っている。ご飯は各入居者が自分の茶碗によそい「いただきます」で職員と一緒に食事が始まり「ごちそうさまでした」で食事が終わり食後の片付け下膳を行う。特別な日には前もって好みの献立をお聞きし入居者希望の献立になる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の生活歴から午後4時から夕食までの時間帯に入浴をしている。一番風呂を希望する入居者や入浴を拒む入居者には職員が様子を見ながらの声がけで入浴してもらっている。4種類の入浴剤を用意し、入居者の好みの湯温で入浴を楽しんでいる。埋め込み式浴槽に安全に入るために階段と手すりが設置してある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お米を研ぐのは私の仕事、プランターで野菜の成長を楽しみに水遣りは私の仕事と得意分野を活かし自分の意思で生活ができる支援をしている。ホーム敬老会行事で入居者家族と一緒に1泊バス旅行に出かけている。洗濯物をたたんだり、毎日手作りカレンダーの差し替えやゴミ出しを自発的に行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の体調に合わせて散歩コースを変えてみたり、食材の買出しと一緒に車で出かけたりしている。馴染みの喫茶店でお店の方とおしゃべりやお茶を楽しみ、季節に応じて外出の機会をつくったり、近くの五条川は桜の名所で夜は提燈に明かりが入り職員と出かける予定をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し日中施錠はしていない。家族の来訪や入居者が玄関に行こうとする時は、リビングにて人感センサーやマットセンサーが感知して確認ができるが、職員が目視で所在の確認を怠らないようにしている。夕方落ち着きなくなる入居者に対し職員は把握しているので共に過ごすように心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災が発生すると自動的に散水を行うスプリンクラーを3月設置した。年2回の消防署立会いの火災非難訓練を実施し、いざという時のために火元場所を変更して避難誘導を行っている。災害については運営推進会議にて区長さんに訓練参加協力をお願いしている。心肺蘇生法、AEDの使い方の学習を消防署にお願いし技術を取得した。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量と水分摂取量は記録されている。法人施設内に管理栄養士が在席しており、栄養バランスのチェック指導を受けることによりバランスの良い献立ができてきているのか確認ができる。月に1回体重チェックを実施し先月との差を記録として残している。1年に1回入居者家族にお願いをし、健康診断を受けた時に血液検査(アルブミン)で栄養状態を把握している。		カロリー計算のできる職員がいるが、法人施設内に管理栄養士が在席しており、専門家による継続的な栄養チェックをお願いすることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはコスモスの絵が飾ってあり来訪者の気持ちを和らげている。リビングソファでテレビを見たり、おしゃべりを楽しんだり思い思いに過ごされ、壁には入居者の外出時のとてもいい顔の写真が掲示してある。トイレには暖房器が設置してあり温度差の配慮がうかがわれる。庭の畑ではジャガイモ、ネギ、ほうれん草が育てられ、献立の食材に利用している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台やエアコン、収納スペースが設置され、位牌や家族の写真、使い慣れたタンスやテレビが持ち込まれたり、職員からの誕生日メッセージの色紙が飾られている。出窓が居室を広く感じさせ、掃除は各自が行い、起床時からの流れの理解が難しい入居者には分かりやすい大きさの文字で朝の動きが分かりやすく掲示してある。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。